



特定非営利活動法人(NPO法人)

# セルフメディケーション推進協議会会報

SMAC

Self-medication advocacy council

2008年10月1日 No.16号

## 特集

### 平成20年度通常総会（第6回）・第8回理事会 開催報告

平成20年度通常総会が第8回理事会並びに、今回初めての試みとして、「会員総会（第1回）」と併催の形で、6月14日（土）の午後、千代田区紀尾井町の明治薬科大学・剛堂会館で開催された。

平成18年度に設置された「店舗販売業と法的責任」プロジェクト（中村健学術担当理事、小林郁夫委員長）により平成20年2月に取りまとめられた報告書「セルフメディケーションの見地からみた一般医薬品の適正な販売方法の有り方について（一般用医薬品の販売制度改正の施行に際して）」の公表（ホームページご参照）と、厚生労働省医薬食品局等、関係機関に対する建議・提言をはじめ、平成19年度にSMACが行った事業活動に関する事業報告と、これらの実績を踏まえて平成20年度に展開される新生・SMACの事業計画と事業体制が提案され、総会・理事会での承認を得た。

本号では事業報告の部分はホームページ等に譲り、本年度の事業計画・事業体制について概要を報告する。

#### ◆ その1

#### 第6回 日本セルフ

#### メディケーション学会の開催

##### <開催要綱>

##### 1. 趣旨・目的

生活者主体の健康・医療・福祉等の推進を図るために、①セルフメディケーションの推進と定着に関する事業活動、②生活者主体の病気の治療・予防、健康の維持・増進を図る制度を検討・建議、③わが国の保健、医療、福祉の増進を図るための社会環境の整備に寄与することを目的とする。今回の学会では、「再度考える！誰のためのセルフメディケーション？」をメインテーマにし、セルフメディケーションを推進する上で、根拠ある正しい情報とは何か、どうすれば市民は賢い利用者になれるのかを具体的に提案・啓発すること、また、生活習慣病対策における特定健診と保健指導のこれからの取り組みについて実践検証を行う。

##### 2. 主催

NPO法人 セルフメディケーション推進協議会  
（森陽学会担当理事、大嶋耐之年会長）

##### 3. 共催

NPO法人 名古屋臨床薬剤師研究会（灘井雅行理事長）

##### 4. 後援

厚生労働省、(社)日本薬剤師会、日本OTC医薬品協会、(社)日本看護協会、(社)日本栄養士会、日本チェーンドラッグストア協会、(NPO)日本健康運動指導士会、日本生活習慣病予防協会、(財)日本健康・栄養食品協会、(NPO)日本サプリメント評議会、愛知県医師会、(社)愛知県薬剤師会、愛知県病院薬剤師会、(社)愛知県栄養士会

##### 5. 会期

平成20年10月25日（土）～16日（日）の2日間

##### 6. 会場及び所在地

金城学院大学

〒463-8521 名古屋市守山区大森2丁目1723番地

##### 7. 参加対象

学会の趣旨に賛同する方すべてを対象とする。市民講演会は主に一般市民を対象とする。

#### ◆ その2

#### スイッチOTC医薬品促進に関する提言

##### 1. 趣旨・目的

わが国において一般用医薬品が普及しない原因を探り、それを乗り越える方策を、スイッチOTC医薬品の促進を中心に検討する。

##### 2. 検討体制

「スイッチOTC医薬品促進検討プロジェクト」を立ち上げ、調査・検討・提言を行う。構成員は次の通り。

村田 正弘（薬学）

SMAC常任理事、(明治薬科大学)

大嶋 耐之（薬学）

金城学院大学教授

江戸 清人（薬学）  
帝京大学薬学部教授  
小松 楠緒子（医療社会学）  
明治薬科大学専任講師  
埴 武郎（経済学）  
八州学園大学専任講師  
渡邊 誠（医薬品評価学）  
明治薬科大学教授

3. スケジュール  
平成20年度内の開始を予定。

### ◆ その3 セルフメディケーション推進 に関する国民意識意向調査の実施

1. 趣旨・目的  
新医療政策における国民の健康増進、治療に先立つ予防医療への転換が国民にどのように受け取られているか、国民一般は自らの健康を自らの手で守ることに、どのようなニーズを持ち、どのような不安やリスクを感じているのか等、国民健康に関する政策立案に基礎を与え、生活者・消費者の視点に立った医療業界・産業界のあり方検討に基礎データを提供することを旨とした全国的な意識・意向調査を実施する。

調査結果は、地域別・年代別・男女別・社会属性別等、多様な分析に耐えるよう、必要十分な調査規模を確保する。

2. 実施体制  
SMAC内に「国民意識意向調査」実施プロジェクトを立ち上げる。  
実査に当たっては、行政（調査スポンサー、調査協力）、関連機関・関連団体（調査スポンサー、調査協力）、消費者団体（調査パネルの提供等）、学識経験者（調査設計、調査解析等）との連携によって実施体制を組む。

3. スケジュール  
平成20年度の開始を予定。

### ◆ その4 セルフメディケーション・ネットの充実

1. 趣旨・目的  
リニューアル4年目を迎えたセルフメディケーション・ネットは会員、非会員にSMACの趣旨や活動を広報する中心となっている。現在アクセス数は月間11万ページビューを超え、会員の他マスメディア、各種団体からの取材申込み、掲載内容の転載許可の

問合せ等が増えている。従来の加藤理事、村田理事、池田会長による連載に加えて、平成20年1月より古屋理事監修による「やってみよう健康運動」を加え、菅野理事、福田理事、長阪氏が担当、好評を博している。既存の連載の蓄積は100本を超えたので、本年度はこれらの活用法を検討している。ただし、制作、運営経費には苦慮しており、現在バナー広告として日本OTC医薬品協会、日本生活習慣病予防協会の支援を受けているが、さらに協賛団体の拡大を呼びかけている。

今後、このネットをさらに発展させ、多くの生活者のセルフメディケーションに貢献するとともに、関連する専門職の方々の日常業務に役立つようなサイトとなり、SMACの目的を実現するため、インターネット委員会では下記の方針のもと、運営を行っていくこととする。

#### <運営の基本方針>

- ①セルフメディケーションの推進と定着に役立つ生活者向けの情報提供、および交流の場を提供する。
- ②セルフメディケーションを推進し、生活者をサポートする専門職に対する情報提供、および交流の場を提供する。
- ③SMACの理念および活動に関する広報媒体としての役割を果たし、SMACに対する認知度、理解を高めるために貢献する。
- ④SMAC設立に関わった3団体および関連団体との連携を深め、相乗効果を得られるような活動の場としての役割を果たす。

#### <発信力の強化>

より多くの人に利用して頂き、SMACの情報発信力を高めるため、事務局を担当している(株)創新社が運営する多くの健康・医療サイト、メールマガジンと連携し、ネットワークを組んで運営する。

2. 実施体制  
インターネット委員会（三角理事を中心に、加藤理事、佐藤理事他）

### ◆ その5 各種機関・団体等との連携強化

1. 趣旨・目的  
従来からSMACを支援して頂いている行政機関・報道機関・職能団体・業界団体・企業等との一層の連携を図るとともに、新たに支援を求めべき機関・団体・企業等に対して、積極的な広報活動を展開していくこととする。
2. 当面の団体訪問スケジュール  
①(株)日本フィットネス産業協会（千代田区・神田）

平成20年 8月

② (社)日本ホームヘルス機器協会 (文京区・湯島)

平成20年 8月

③ 全国消費者団体連絡会 (千代田区・六番町)

平成20年10月

### 3. 訪問結果の概要

#### 社団法人 日本フィットネス産業協会 (FIA)

1. 日時：平成20年8月8日 (金) 午前11時～12時
2. 場所：神田・鍛冶町 エルヘンビル 会議室
3. 訪問者：村田常任理事、安田会長補佐、佐藤広報担当理事
4. 対応：同 事務局長 杖崎 洋 氏
5. 要旨：
  - ①本協会の所管は経済産業省のサービス産業課。健康に関わる産業なので厚生労働省との関係も深い。昭和62年設立。3月末現在の正会員106社、賛助会員100社。
  - ②フィットネス産業に関する調査研究、研修会やセミナー開催・情報の収集提供を行うとともに、消費者保護活動や関連機関との連絡協調活動を推進している。
  - ③厚労省の健康日本21キャンペーンと協調して「健康づくり『虎の巻』」小冊子の製作、配布等も行っている。(日本自転車振興会の補助金をもらい60万部作成、会員各社の事業所で一般消費者に無償配布。)
  - ④自分でフィットネスクラブ等に来て運動する人々は問題が少ない。運動嫌いな人々にどう運動させるかが問題。このため60歳以上の人々を敬老の日を挟んだ3日間、協会加盟のフィットネスクラブに無料ご招待するような活動も行っている。
  - ⑤国民の健康に奉仕する産業を支える団体という意味では当協会とSMACとの事業連携は可能。

#### 社団法人 日本ホームヘルス機器協会 (HAPi)

1. 日時：平成20年8月22日 (金) 午前11時～12時
2. 場所：湯島・南山堂ビル5F 同協会会議室
3. 訪問者：池田会長、村田常任理事、安田会長補佐、佐藤広報担当理事
4. 対応：同 常務理事 高橋崇浦 氏、技術部長 鴻野敏明 氏
5. 要旨：
  - ①本協会は厚生労働省と経済産業省の共管により昭和48年に設立された。専務理事は厚労省から、常務理事は経産省から来ている。本年1月現在の会員数は、正会員 (製造販売業者及び製造業者) 75社、賛助会員 (販売業者) 38社の計113社。
  - ②家庭においてセルフケアを目的として用いられる家庭用医療機器、健康管理機器等に関する調査研究、認証基準、JIS規格の策定・見直し、適正な

広告及び販売の自主基準の策定等と、技術の向上を通じて、品質・有効性・安全性を確保するとともに、健全で公正な取引を推進して消費者の利益を保護し、個人個人の自主的な健康管理・増進とホームヘルス機器産業の健全な発展に寄与し、広く国民福祉の向上に貢献することを目的としている。昭和47年に「家庭用健康治療機器工業会」として発足。48年8月社団法人化、平成6年「社団法人日本ホームヘルス機器工業会」と改称、17年8月製造販売業者及び製造業者を正会員とする「社団法人日本ホームヘルス機器協会」に改組。

- ③家庭用医療機器に関する自主基準、広告における表現・表示の自主基準、「禁忌事項」の自主基準等の自主基準の策定・情報提供事業、家庭用医療機器や健康管理機器の販売及び賃貸管理者講習、修理業責任技術者研修等の「講習会」事業、家庭用医療機器に関する消費者相談室の設置、出版事業等を行っている。
- ④取扱機器の種類別に「第1部会家庭用電位治療器」から「第11部販売業適正部会」まで11の部会と、「政策総務」、「適正流通」、「適正広告・表示」、「製品技術」、「教育情報」、「広報事業」、「法制」、「JIS・認証基準」、「安全・品質システム」、「登録講習」の10の委員会により運営されている。
- ⑤セルフケアを家庭用医療機器、健康管理機器の面から支える産業のための団体という意味では当協会とSMACとの事業連携は可能。

#### 全国消費者団体連絡会 (全国消団連)

1. 日時：平成20年10月3日 (金)  
午後1時30分～2時15分
2. 場所：四谷・プラザエフビル (旧・主婦会館)  
6F 同会応接室
3. 訪問者：村田専務理事、佐藤広報担当理事
4. 対応：同 事務局長  
阿南 久 (あなん ひさ) 氏
5. 要旨：
  - ①本会は主婦連、地婦連、日本消費生活アドバイザー・コンサルタント協会等、「消費者組織の中央団体」22団体と、「地方消費者連絡組織」21団体、計43の消費者団体のまとまった連絡組織で、毎年11月に開催される「全国消費者大会」の事務局を担っている。阿南氏は前・事務局長の神田敏子氏に続いて、日本生活協同組合連合会を経て今年5月に着任された新・事務局長。
  - ②「1. 消費者政策への関与」、「2. 食品の安全政策への関与」、「3. 地方行政の充実・強化の支援」、「4. 情報通信、環境政策への発言」、「5. CSR、国際標準の推進への関与」等を2008年の課題として掲げており、年初来の「消費者庁の新設運



動」にも深くコミットしている。

- ③消費者政策への関与の一環として、国民が自らの健康を自ら守る運動体としてのSMAC活動への理解を得、行く行くは事業連携を行うべく表敬訪問したもの。
- ④今回の訪問では、具体的な事業連携のあり方として、「セルフメディケーションに関する国民意識意向調査」の事業スキーム案を打診。

## 6. 実施体制

SMACの幹部、広報担当理事。

## 7. スケジュール

平成20年度末までに5団体訪問を予定。

## ◆ その6

### その他のプロジェクト

- 1. 「薬剤師の穿刺採血検査の導入運動」の推進
- 2. セルフメディケーション・ネット内に「医療スタッフ向けの禁煙推進サイト」、「青少年のためのくすり教育推進サイト」の立ち上げ
- 3. 「携帯心電図によるモニターと健康維持管理によるシステム事業」の検討
- 4. 「トクホ適正使用研究会」の立ち上げ
- 5. 大学、諸団体からの研修、講演の受託
- 6. 出版物の監修、機関誌紙等への寄稿

## ◆ その7

### SMACの運営体制

#### 1. 担当理事制

- SMACの運営は、総会の議決のもとに、「総務」、「会計」、「学術」、「学会」、「広報」、「ネット」の各担当理事の分担により遂行されている。
- 各担当理事のもとに、夫々の理事、会員が所属し、業務を分担する。(平成20年度再任理事30人、新任理事2人、再任監事2人の役員合計34人)

#### 2. 運営企画会議

- 平成20年度は、19年度にいったん廃止した「運営企画会議」を復活させ、会長の諮問機関とする。
- 運営企画会議は会長が必要な時期に(ほぼ2ヶ月に1回)、都度必要なメンバーを招集して開催す

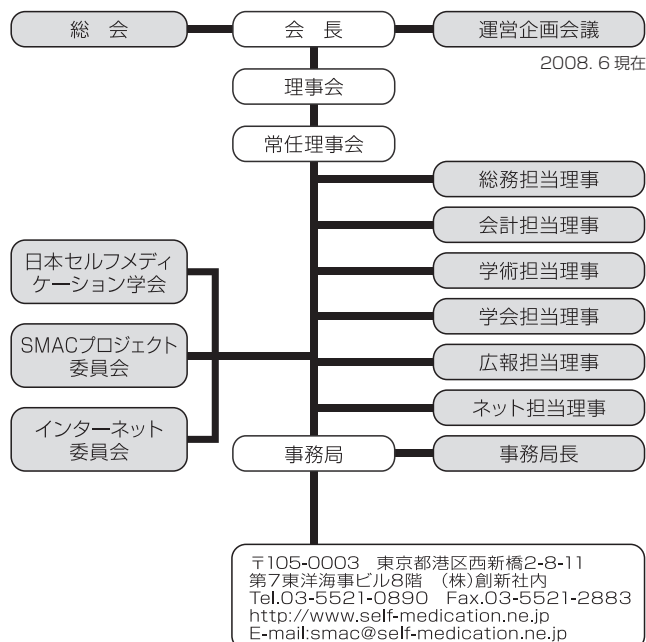
る。

- 運営企画会議に関わる事務は総務担当理事が担当し、事務局とともに遂行する。
- 運営企画会議は各担当理事間の連絡調整をはじめ、当面のイベント等の実行体制を具体的に推進する。

#### 3. 委員会等

- 「日本セルフメディケーション学会」の開催に関しては、学会担当理事のもと、年会長を定め、年会長の組織した実行委員会により運営する。
- その他、年間事業計画に含まれる個別プロジェクトの運営は、それぞれ立ち上げられた臨時的「SMACプロジェクト委員会」によって行われる。
- セルフメディケーション・ネットの日常的な運営はネット担当理事のもとで行われるが、長期的な方針決定や各担当理事の所掌にまたがる事項の調整は年間2～3回開催される「インターネット委員会」で行われる。

### SMACの組織委員会の構成



発行：特定非営利活動法人(NPO法人) セルフメディケーション推進協議会

事務局：〒105-0003 東京都港区西新橋2-8-11第7東洋海事ビル8階  
(株)創新社内 Tel.03-5521-0890 Fax.03-5521-2883  
http://www.self-medication.ne.jp E-mail:smac@self-medication.ne.jp